

# 介護日誌のペーパーレス化

## 事業所概要

- ・事業所名：特別養護老人ホーム百々千園
- ・サービス種別：介護老人福祉施設（定員：50人）・短期入所生活介護（定員：20名）
- ・介護職員数：29人（常勤19名・非常勤10名）
- ・プロジェクトメンバーの構成：介護職員（3名）、生活相談員、介護支援専門員、園長

## 取組に至った背景

- 以前から手書きの介護日誌に加え、その後パソコン入力を行っていた。内容についてもほとんど同じものであり、2度手間になっていた。
- 夜勤職員についても同様であり、長時間分の日誌を記載しなければならないため、非常に時間がかかっていた。
- 職員の中でも無駄と考えている職員も多かったが、思っている中々言い出すことができない状況にあり、そのまま継続していた。

## 課題解決のプロセス

### ●Step1

手書きの介護日誌について、なぜ必要なのか、その意義について話し合う中で「わざわざ手書きで書く必要のない内容もある」との意見がでた。

### ●Step2

過去1週間の日誌を見て、記入すべき情報をピックアップすると、ほとんどがパソコン入力のみで手書きする必要がないことが分かる。

### ●Step3

介護記録の様式を変更。不要な欄を削除し、記入すべきことを決定する。（記載内容のルール化）

### ●Step4

職員に対し、研修会を実施。記載内容のルールを説明し、翌日より開始。

## ※取組時のポイント・工夫※

### (1)必要な事項を洗い出す

手書きの介護日誌には、その日の状況を一目で確認できる、状態変化のあった利用者の把握が容易であるというメリットもあるという意見があったため、不要部分を洗い出した。

### (2)徐々にステップアップ

極力、手書き介護日誌に記載をせず、パソコン入力、パソコンで日誌を確認することを進めているが、いきなりのペーパーレス化は現場に混乱を招く恐れがあるため、試行期間（3か月）を設けた。今後は、ペーパーレス化に向け、効果検証を含めたアンケート調査を実施予定。

## 取組効果

### 【質的な効果】

- (1)職員の事務作業が軽減された。
- (2)2度手間が解消されたことで、職員のストレスが軽減された。

### 【量的な効果】

- 今までは、一連の業務に約60分かかっていたが、30分に短縮できた。
- **1日の介護日誌で、1日約180分時間短縮を達成(年間1095時間短縮)**

## 同様の取組を検討している事業所へのアドバイス

- 職員の文字・数字の読みづらさがパソコン入力により改善し、負担が軽減される。
- 一括入力や定型文作成等、簡単に入力できるようにし、パソコン入力の手間を省く。
- 今後はタブレットやスマホを使っでの入力やインカムによる音声入力も検討（その場で入力できるように）
- 手書き日誌を今後、情報伝達ツールの1つとして活用するのか、検討が必要
- 少しずつ改善できるよう、継続的にサポートする体制が重要

